

施策	1201 上水道の整備・管理						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民						
施策が目指す姿	効率的かつ安定的な水の供給、水道統合事業の推進、既設管路の適切な維持・管理・更新等を図る。						
成果指標	行政区域内普及率 5年間(H30～H34)普及率91.0%(現状値90.8%) 有収率 5年間(H30～H34)有収率80.0%(現状値74.0%)						
目標達成状況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	成果指標1 [%]	予定	90.80	90.80	90.90	90.90	91.00
		実績	91.30	92.40	92.10		
	成果指標2 [%]	予定	75.00	76.00	77.00	78.00	80.00
		実績	73.92	72.49	73.26		
		単位コスト	56,623.31	67,187.76	66,522.66		
	成果指標3 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
	成果指標4 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
トータルコスト (千円)	予定	4,394,896	4,870,441	4,873,450	0	0	
	実績	4,185,595	4,870,441	4,873,450	0	0	
内部評価	貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 区画整理事業等における配水管布設にて管網整備されたことで普及率の向上を図る。 老朽化した施設や管路の施設整備計画に基づいた更新により有収率の向上を図る。 					
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 普及率に関しては、前年度から0.3ポイント低下したが、目標値はクリアした。 有収率に関しては、前年度から0.77ポイント上昇したが、目標未達成である。 					
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 有収率が下がる要因は、耐久性が低い塩化ビニル製の水道管が耐用年数を経過し、老朽化してきたため、漏水による不明水量が多いことが挙げられる。 					
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 漏水状況により管路の老朽度を調査分析し、漏水調査や管路更新事業に反映させる。 管路の更新事業の事業量や施工箇所を見直し、経年化率の上昇を抑える。 					
外部評価							
単位施策達成のための事務事業	事業コード	名称				トータルコスト(千円)	達成度
	461903	国庫補助金返還金				0	100
	463201	上水道整備事業費				301,587	100
	463401	固定資産取得費				3,294	100
	463601	配水及び給水施設管理事業費				384,324	100
	464103	老朽管更新事業費				212,025	100
	464304	管路耐震化事業費				638,892	100
	464401	水道施設耐震化事業費				26,609	100
	464601	栃木市水道統合事業費				202,246	100
	466101	受託工事費				48,874	100
	469202	水道設備更新事業費				619,443	100

単位施策評価表 補表

施策	1201 上水道の整備・管理		
区分	妥当性	妥当	上水道は、市民のライフラインとして大変重要であり、整備・管理を適正に行うことには妥当性がある。
	コスト削減の余地	有	施設改修や管路工事において、新しい技術やランニングコストを抑える製品等を採用することで使用年限の延伸やコストの縮減が可能である。
	受益者負担	適正	受益者からの水道料金によって、水道事業の運営は賄われている。
	上位貢献度	有効	基本施策の達成には、安全で良質な水道水の安定供給は必須である。
	類似事業の有無	無	水道事業には、類似する事業はない。
	成果向上の余地	有	水道ビジョン策定により、より効果的で効率よい水の安定供給を図る。
内部評価	貢献度	新大平下駅前第2土地区画整理事業が令和2年度で完了したこと。及び、千塚町や大塚町などの未普及地域において上水道の管網が整備されたことにより、普及率の向上に繋がる。 また、老朽化した塩化ビニル管の布設替工事について、目標値が工事延長13.0kmのところ、実績は15.4kmであり、管路の強靱化をより多く進めることで有収率に良い影響を与えていくと思われる。	
	達成状況	普及率は目標を達成することができた。 有収率については、配水管の布設替を順調に進める中、配水管の漏水修理を37件実施するなど、台風被害による下落があった前年度からは0.77ポイント上昇したのだが、前々年度との比較では若干下降していることから、改善しているとは云えない状況であり、目標にも到達しなかった。	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・普及率が目標値を超えている要因として、給水戸数は増えているが行政区域内の人口が減少したことで数値を押し上げたものと思われる。 ・配水管のうち耐久性が低い塩化ビニル管の老朽化が急激に進んでおり、老朽化した管路の更新を効果的かつ効率的に実施していく必要がある。 	
	取組方針	漏水状況により発生頻度や管路の老朽化の進行度合などの調査及び区域分けした配水区域での有収率を分析することで、漏水調査の範囲や管路更新事業の優先順位などに反映させる。また、塩化ビニル管布設替工事の事業費を継続的に確保し、相当量の工事を計画的に実施することで、経年化率の上昇を抑え有収率の向上を目指す。	